

第三十四回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策 「よこはま古民家」とその周辺歴史散策

平成20年11月6日(木) (集合; 相鉄線「三ツ境駅」改札口9時50分・解散14時頃。

(戸塚駅からのバス便有り, 約40分280円) 小雨決行

「IV」長屋門公園・歴史体験ゾーン (休日; 第2金曜日, 祝日の場合は開館, 12/29~1/3)

指定管理者; 長屋門公園歴史体験ゾーン管理運営委員会

住所; 瀬谷区阿久和東1-7・電話; 045-364-7072・FAX; 同左)

最寄り駅; 相鉄線「三ツ境駅」徒歩18分・神奈中バスと7系統 (又は戸19系統) 上阿久和下車  
徒歩3分。

特徴; 歴史体験ゾーンに古民家, 長屋門, 文庫蔵が点在, 竹炭づくり, 節分祭を実施, 癒しと緑と  
古民家。

行程: 三ツ境駅→白姫神社→鎌取池跡→長屋門公園 (昼食) →製糸場跡→小金山→谷戸道祖神→お  
墓山→バス停「中村」→戸塚駅 (30分)・又は三ツ境 (10分)。

#### 散策場所と内容

1・白姫神社 (祭神, 蚕の神, 通称お白様・養蚕守神・衣の神信仰・阿久和蚕組合守り神・快癒・息災出  
世祈願)

明治42年 (1909) 11月伊勢神宮, 外宮の衣の神を奉載し, その御神体を蚕の神として阿久和  
一帯の養蚕守り神として祀られたのが始まり。昭和32年 (1957) 養蚕業衰退して阿久和から此の地  
に遍座された。

2・鎌取池跡 (現在の駐車場あたりが瀬谷民話に出る鎌取池辺り)

3・長屋門公園 (茅葺古民家・休園日毎月第2金曜日・3.5ヘクタール四季折々の草花, 小川せせら  
ぎ)

(1) 長屋門公園 (古民家見学予約, 予約すれば指定場所での飲食可)

自然のしくみを大切にして営まれてきた農村生活の魅力を再生しています。湧き水と流れ, 杉林, そして  
茅葺きの民家や長屋門が, 瀬谷・阿久和の風土を今に伝えています。横井戸; 水が豊かだった, この地域

では、横に穴を掘っていく「横井戸」が活躍していた。此の横井戸は、左右正面の三方に掘られている。

## (2) 母屋旧安西家（もと西向き、本工事で南向き）

この建物は、元横浜市泉区和泉町2937番に屋敷を構える安西家の主屋であったが、平成2年横浜市に寄贈された。市緑政局調査解体工事を行い平成4年6月当長屋門公園に移築完了した。安西家の位牌によると元禄8年（1695）から続いており現当主で13、4代を数え、天保期には和泉村の名主を勤めていたことが当家所蔵される

「相模国村高控帳」によって明らかである。解体時の痕跡には使用されなかった仕口（シキ・切込）や喰い違いのある物も多く見られた。これは当主屋が安西家の主屋として和泉村に建てられる以前の前身の時代が有ったことを示すが、伝承によっても元在った場所は明かでない。建築年代を明らかにする史料は未だ発見されないが、間取りや構造の特徴から江戸時代中期（18世紀頃）と思われる。解体時大黒柱通りの土間から埋められたトックリが発見され、このトックリの製作年代が天保年間頃（1830～1844）まで遡ることから、安西家の主屋として和泉村に建てられた時期は天保年間頃と推定される。

## (3) 文庫蔵（建築年代明治期と推定）

現在残っている扉は黒漆喰で仕上げが施されており、頑丈な金物で支えられ幾重にも蛇腹をつ内部の太い梁や軸組みなど丁寧な仕事が施され、施主の財力を示すと共に収納された物の大切さを物語っている。壁も扉と同様に黒漆喰で仕上げられた可能性があるが、関東大震災による被害が大きく、建物は傾き、壁は崩れ落ち残っていないため、断定は出来ない。用途は衣類、什器等家財の収納に当てられていたようである。

## (4) 長屋門・穀蔵（建築年代明治17年と言う穀蔵はそれ以前と推定される）

長屋門は、正面から見て右側に大きな開口部を持つ居住部分、左側には納屋十間、更に十蔵が続くという珍しい形式となっています。門の右側は隠居部屋として使われたり、養蚕に利用されるなど、幾たびかの改造を経て来ているようだ。戦後は診療所として利用され外壁が白い漆喰で覆われていたが、その後再び座敷に戻され本工事に至っている。穀蔵は、その名の示す通り穀物の保存、農機具の収納に用いられたようだ。

4・製糸場跡（養蚕業明治20代～昭和初期まで、家内工業現金収入源として大きな役割を果たしてい

た)

瀬谷区内に養蚕農家が生産した繭を生糸に加工する9社の工場が操業していた。この付近には相州改良社と大剛社があり、その為人の出入り、馬車の往来が多く賑やかな事から江戸阿久和とも言われていた。相州改良社、創業明治20年、廃業大正元年、社長北井要太郎、工場敷地3000m<sup>2</sup>工場5棟、繭蔵、蒸倉室、繰返場、座繰場、繰糸場、汽罐(ボイラー)、室があり、工女120~200名で生糸年産量約2550kg。大剛(ダイゴウ)社は、創業明治23年頃、社長大岡源兵衛、28年~長男一作(17歳)が家業を継ぎ、明治42年頃まで創業。敷地面積1500m<sup>2</sup>、工女約40名。

#### 5・小金山(富士山・丹沢連峰望む良いスポット)

#### 6・谷戸道祖神(賽の神・さいのかみ・疫病、災難等他方から入らぬよう守る神)

阿久和の谷戸は村の一番北に位置し、すぐ東は武蔵と相模の国境を隔てて、各村々に通じる出入り口であった。近くの製糸場に出稼ぎに来ていた娘達が故郷を懐かしみ、家族の無事を祈ったと伝う。

#### 7・お墓山(旗本安藤氏のお墓山・昔小字神山、)

江戸時代旗本、安藤氏3代、正珍(マヨシ・寛文6年、1666没)・同弟正頼(寛文3年、1663没)・4代正程(マツリ・延宝7年、1679没)の墓地と定められてからお墓山と呼ばれ、曹洞宗観音寺(泉区新橋町)の寺領として現在に至っている。正面の一番奥まった木立の茂みの中に、安藤次右衛門正次の事蹟を漢文で刻んだ碑がある。大坂冬の陣、夏の陣に数多く軍功をたてた次右衛門は、徳川幕府の旗本として所領2540石を有し幕政に参画した。阿久和村はその所領の一部として明治維新に至るまでその治政下にあった。桜古木多く、お花見が楽しい場所。

# 第三十四回行程案内図

## 白姫神社～長屋門古民家～お墓山

